

5 学年経営・学級経営

学年経営や学級経営は、学年や学級の教育目標を達成するための組織的・計画的な営みです。学年経営や学級経営を充実させるためには、「計画(Plan)→実践(Do)→評価(Check)→改善(Action)…」で表わされるマネジメント・サイクルを踏まえた活動を進めることが重要です(マネジメント・サイクルについては「4 学校経営」を参照)。

また、学級担任は学級の特性や指導上の課題を把握し、他の教師や保護者と連携・協力しながら指導に当たるなどして、学級経営の工夫・改善を進めていくことが大切です。

1 学年経営

(1) 学年経営とは

学年経営は、各学級の実態を踏まえながら、学年全体が互いに協力し合い、学年の教育目標の達成を目指して営まれるものです。

協働体制を基盤とした学年経営

学年の教師は、各学級の特性や指導上の課題を把握した上で、学年主任を中心に意見交流や情報交換を深め、共通理解の上に指導をしていく体制を確立し、見通しをもった計画の下で学年の目標を達成していくことが大切です。

指導方針や指導内容を統一する。

児童生徒の指導に必要な情報の交換をする。

学年の教師間の連絡・調整を円滑に行う。



年間指導計画に基づき授業進度を調整する。

同学年教師による研修体制を確立し、互いに啓発し合う。

学年の教師が相互に協力し合える体制を実現する。

(2) 学年経営における協働の職務

学年の教師一人一人が学年経営を支えています。協働体制を基盤とした学年経営には、次のような活動が求められます。

- **学年の教育目標及び学年の教育計画の作成に関する活動**
学年の教育目標に基づき、各学級の目標を設定し、具体的な教育活動を計画する。
- **授業の「計画→実践→評価→改善」に関する活動**
指導案の共同作成、相互の授業観察や研究授業の実施と評価、学習情報の収集と交換、ティーム・ティーチング、少人数指導、習熟度別指導、ノート指導や学習規律など、指導方法の工夫・改善に努め、指導技術の向上を図る。
- **児童生徒理解と生徒指導体制の確立に関する活動**
学年の教師が情報を共有しながら児童生徒理解を深め、生徒指導に当たっての指導方針や考え方の共通理解を図る。
- **校務分掌業務に関する活動**
校務分掌に関わる業務が学年全体に及ぶもの（学年の諸調査等の実施、廊下の学年掲示、学年共有の備品の管理等）については、協力して行う。

(3) 学年部会

学年部会は、学年の教師間の信頼や協力関係を築く上で重要な役割を担っています。学年部会で協議される主な内容には、次のようなものがあります。

- **学習指導**
 - ・学年の教育目標、方針、指導計画等の検討
 - ・教科の指導内容、指導方法、進度調整
 - ・学年行事の計画 ・ティーム・ティーチング等の打合せ ・評価に関する打合せ など
- **生徒指導**
 - ・生徒指導の方針の確認 ・児童生徒の生活状況についての情報交換
 - ・事故防止のための指導事項の連絡、確認 ・問題行動への具体的な対応の協議
 - ・役割分担の打合せ など
- **研 修**
 - ・研修計画の作成 ・研究授業の運営 ・教材研究 など
- **学年事務**
 - ・児童生徒の在籍状況の把握 ・学年の備品管理、施設・設備の安全点検
 - ・教材、教具の管理 ・調査統計の実施 ・進学就職に係る事務
 - ・学年PTA活動への協力 ・学年通信の発行 など

2 学級経営

(1) 学級経営とは

学級経営とは、学校の教育目標を実現するために学級を基本の組織として展開される教育活動の計画、実施及び評価など学級担任が関わる全ての活動です。

○ 学級経営の機能

学級経営の機能には、児童生徒の知的・技能的な学習要求に応じて、価値の形成を図るという「**学習集団としての側面**」と人間相互の関係や規律の形成を図るという「**生活集団としての側面**」の二つの側面があります。

具体的には、学級における学習環境（施設・設備等）、各教科等の指導、生徒指導、学級事務、家庭や地域社会との連携などの諸事項に関する計画、実施及び評価、さらには改善といった経営活動が含まれます。

学級経営においては、学習集団及び生活集団としての両方の側面を統一的、統合的に捉えて考えることが大切です。

<児童生徒が求める教師>

児童生徒は、次のような教師を求めています。

- 公平 ○ 指導熱心（教え方が上手）
- 明るい ○ 優しさと厳しさ
- 親しみやすい ○ ユーモアがある
- はきはきしている ○ 一緒に遊ぶ



○ 学級経営の内容

学級経営には大きく分けて、次のような内容があります。

学 級 経 営 の 内 容	学級経営計画に関わること	<ul style="list-style-type: none"> ・学級目標の設定 ・学級経営計画の立案 ・学級組織の編成 ・学級経営の評価と改善 など
	学習環境に関わること	<ul style="list-style-type: none"> ・教室環境（温度、採光・照明、通風）の調整 ・教室の美化 ・教室外の学習環境の整備 など
	家庭との連携に関わること	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、PTA、地域との連携 ・学年・学校との連絡・調整 ・望ましい生活習慣の確立 ・宿題や家庭学習 など
	学習指導に関わること	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に関する指導全般 ・朝自習や朝読書など、学習を支援するための取組 など
	生徒指導に関わること	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解の推進 ・教育相談の実施 ・児童生徒の自発的活動を促すルールづくり ・望ましい学級の雰囲気づくり ・教師と児童生徒、児童生徒相互の好ましい人間関係づくり（支持的風土） ・学級集団づくり ・いじめや不登校の未然防止 など
	進路指導に関わること	<ul style="list-style-type: none"> ・在り方や生き方についての指導 ・進路情報の提供 ・三者面談の実施 など
	学級事務に関わること	<ul style="list-style-type: none"> ・諸表簿の整理、備品の管理 など

(2) 求められる学級経営

学級は、学校における学習や生活の基盤であることから、児童生徒が安心、安全で伸び伸びと過ごせる楽しい場でなければなりません。児童生徒が登校してから下校するまでの学校生活の中で、友達や教師と共に学び合い、活動することを通して、自分がかげがえのない一人の人間として尊重され、頼りにされていることを実感できる心の居場所となる学級が求められています。

児童生徒が安心して自分のよさや可能性を發揮できるようにするためには、互いの考えや気持ちを尊重し合える雰囲気をつくることが大切です。

○ よりよい生活を築こうとする態度を育てる学級経営

学級が児童生徒にとって「心の居場所」となるためには、一人一人のよさや可能性が認められ、支え合い、励まし合うことのできる支持的な風土に満ちた場であることが必要です。そのためには、次の点に配慮して学級経営に当たることが大切です。

- 児童生徒一人一人が活躍できる場を設定する。
- 児童生徒のよさを認め、励まし、みんなに広める場を設定する。
- グループ活動など、助け合いの場を設定する。
- 児童生徒の思いや願いを生かせる活動を取り入れる。

○ 自己実現を促す学級経営

児童生徒一人一人に、学級における諸活動を通して、自ら課題を見付け、よりよく問題を解決することができる資質や能力を身に付けることができるようにすることが大切です。

そのためには、児童生徒一人一人のもつよさや可能性を伸長させ、豊かな自己実現を促す学級経営が求められます。

○ 開かれた学級経営

児童生徒一人一人のよさや可能性を伸ばしたり、学級内で起こる問題を解決したりするためには、他の教師と連携・協力しながら指導に当たることが必要です。そのためには、開かれた学級経営を心掛け、同学年はもとより、他学年の教師や養護教諭にも広く助言を求めるなど、校内の協働体制を確立することが大切です。